平成 26 年 5 月 16 日

岡山県感染症週報 2014 年 第 19 週（5 月 5 日～5 月 11 日）

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

◆2014 年　第 19 週（5 / 5～5 / 11）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 17 週　2 類感染症　結核　1 名（80 代　男）

第 18 週　2 類感染症　結核　1 名（30 代　男）

5 類感染症　侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（70 代　男）

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 153 名（定点あたり 3.54 → 1.82 人）の報告があり、前週より減少しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で 623 名（定点あたり 12.15 → 11.54 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【 第 20 週　速報 】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 9 施設でありました。（5 月 12 日～14 日）

1. インフルエンザは、県全体で 153 名（定点あたり 3.54 → 1.82 人）の報告があり、前週より減少しました。
   地域別では、備北地域（8.50 人）、備前地域（1.87 人）、美作地域（1.60 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによる入院患者は、1 名の報告がありました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は 7 施設でありました。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ情報」をご覧ください。
   全国の第 18 週の発生状況を見ると、定点あたり 2.52 人であり、前週より減少しました。
2. 感染性胃腸炎は、県全体で 623 名（定点あたり 12.15 → 11.54 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。この時期としては、患者数が多い状態がつづいており、倉敷市及び美作地域では発生レベル 3 となっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは「感染性胃腸炎情報」をご覧ください。
3. 麻しんは、岡山県では第 12 週以降の報告はありませんが、全国で依然発生がつづいています。有効な予防方法は、予防接種を受け、あらかじめ免疫を獲得しておくことです。これから海外の麻しんが流行している地域へ渡航される方は、母子手帳などで予防接種歴を確認の上、予防接種されることをご検討ください。また、国内外の麻しん発生地域に出かけ、その後、発熱、鼻水など風邪のような症状が出た場合は、麻しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。麻しんについて詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↓	
咽頭結膜熱	↘	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★
感染性胃腸炎	→	★★★★★	水痘	↘	★
手足口病	↓		伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	→		流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	↑	★	流行性角結膜炎	↓	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↑				

【記号の説明】 前週からの推移: ↗ :2 倍以上の減少　↘ :1.1～2 倍未満の減少　→ :1.1 未満の増減
↓ :1.1～2 倍未満の増加　↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白：発生なし　★: 僅か　★★：少し　★★★：やや多い　★★★★：多い　★★★★★：非常に多い
今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
感染性胃腸炎（ロタウイルス）については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

【医療機関の方へのお知らせ】

医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準の一部が改正されました。（平成 26 年 4 月 28 日）

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について」の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」が改正されました。
この改正については、平成 26 年 5 月 12 日から施行されます。

改正の概要

二 類 感 染 症
・ジフテリアの定義および届出基準、届出様式の変更 ・急性灰白髄炎の届出様式の変更
四 類 感 染 症
・A 型肝炎の届出様式の変更
五 類 感 染 症
・侵襲性インフルエンザ菌感染症の検査方法、届出様式の変更 ・先天性風しん症候群の届出様式の変更 ・梅毒の届出基準、届出様式の変更 ・風しんの届出方法（可能な限り 24 時間以内に、保健所への報告を求める旨を記載追加）、届出様式の変更 ・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）の検査方法の変更 ・マイコプラズマ肺炎の検査方法、報告様式の変更 ・ウイルス性肝炎（E 型肝炎および A 型肝炎を除く）の届出様式の変更 ・破傷風の届出様式の変更

〇別添新旧対照表
〇医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準
〇届出様式（全数把握感染症）
〇届出様式（定点把握感染症）

今週の注目感染症

麻しん

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによる急性熱性発しん性疾患です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100％発症します。感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。時には重篤な合併症をおこすことがあります。麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。麻しんの予防にはワクチンの接種が重要で、2 回接種することでほぼ確実な免疫を得ることができるといわれています。麻しん（はしか）に関する Q&A（厚生労働省）

麻しんの予防接種を受けましょう

麻しんは予防接種で防げる病気です。

定期予防接種の対象となる方はぜひ予防接種を受けましょう。

麻しん・風しんの定期予防接種の期間は、生後 12～24 ヶ月及び小学校入学前の 1 年間（4 月 1 日～3 月 31 日）となっています。対象期間中であれば無料でワクチンを接種することができますので、定期予防接種の対象者（下表参照）の方は、できるだけ対象となってから初めの 3 ヶ月の間に接種しましょう。定期予防接種では、麻しん・風しんの混合ワクチン（MR ワクチン）として接種します。詳しくは、お住まいの市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。

また、予防接種歴が不明又は未接種の場合は予防接種を受けることをご検討下さい。

おかやま医療情報ネットから、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。

ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

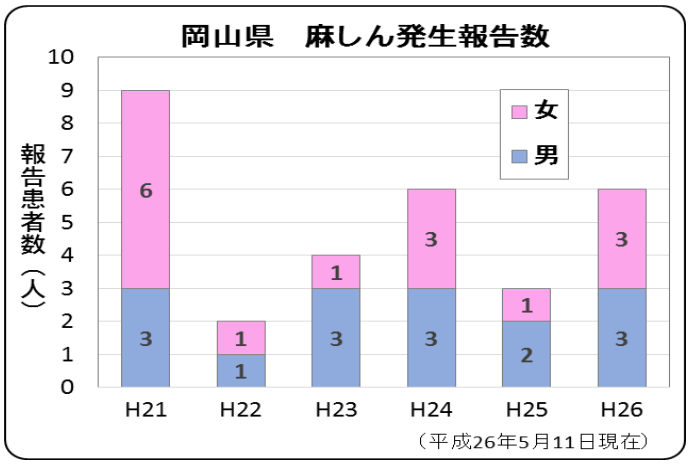
麻しん患者の増加について　平成 26 年 4 月 15 日（厚生労働省）

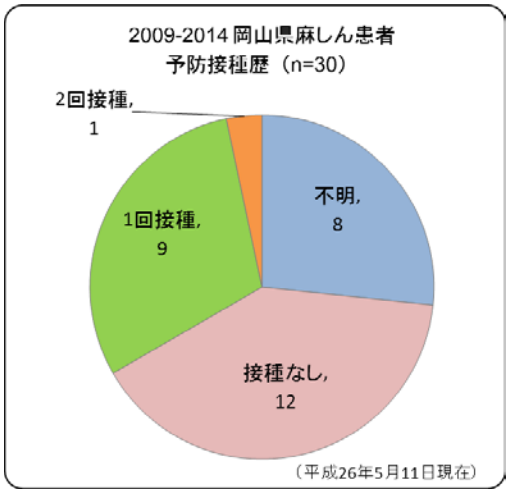
【平成 26 年度　麻しん･風しんワクチン定期接種対象者】

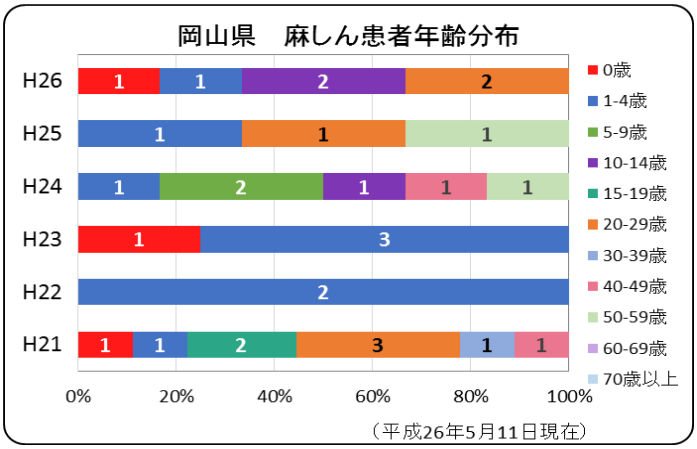
第 1 期	生後 12 ヶ月以上 24 ヶ月未満の者
第 2 期	5 歳から 7 歳未満の者で、小学校就学 1 年前（平成 20 年 4 月 2 日～平成 21 年 4 月 1 日生まれ）

【岡山県の麻しん発生状況】

岡山県では、第 12 週以降の報告はありません。県内の 2014 年の累計は 6 名となっています。2013 年 12 月からの 5 ヶ月で 8 名の患者が報告されています。2014 年の患者の年齢分布は、0 歳　1 名、1－4 歳　1 名、10－14 歳　2 名、20－29 歳　2 名でした。2009-2014 年に報告された患者の予防接種歴は、　接種不明が 8 名、接種なしが 12 名、1 回接種が 9 名、2 回接種が 1 名となっています。







【全国の麻しん発生状況】

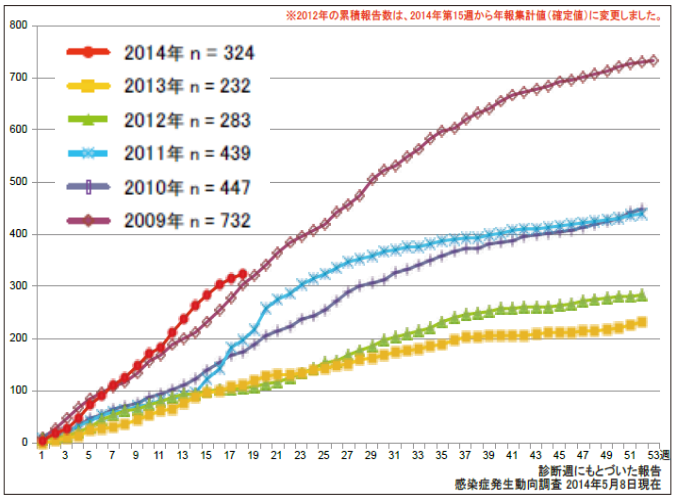
2014 年全国の第 18 週までの累積報告数は 324 名であり、前年同時期の約 2.7 倍となっています。

麻しん発生動向調査（国立感染症研究所）

2014 年第 12 週までの発生状況をまとめた特集によると、2013 年 10 月頃からのフィリピンでの患者増加を受け、輸入麻しんが全国で認められるようになり、医療機関内や家庭内で感染が拡大した事例が、各地で報告されています。幸い迅速な対応により大規模流行には至っていませんが、2014 年 18 週までの報告数が、過去 6 年間の同時期と比較して最多となっています。

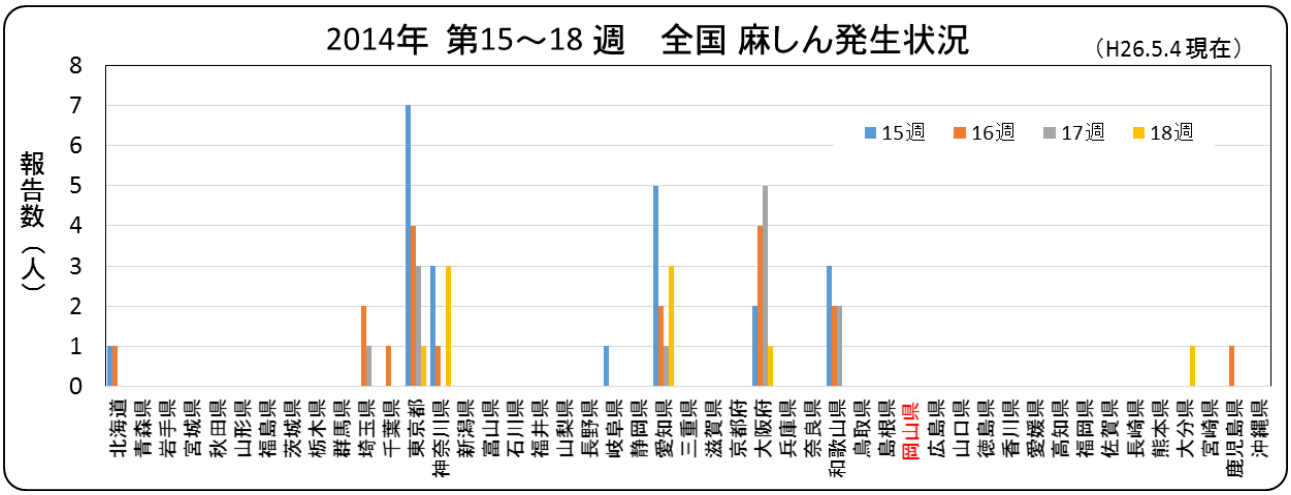
年齢別では、麻しんの定期予防接種対象に達していない 0 才児及び予防接種歴のない 1 才児の報告が多くなっており、定期予防接種の対象年齢となったら、できるだけ早く予防接種することをご検討ください。

麻しん累積報告数の推移　2009～2014 年（第 1～18 週）



国立感染症研究所　感染症疫学センターホームページより

世界保健機関(WHO)西太平洋事務局(WPRO)から公表された情報によれば、2014 年の 4 月 20 日までの累積確定患者数は、中国、フィリピン、ベトナムの順に多くなっています。2014 年、日本での海外渡航歴のある患者の渡航先は、フィリピン、インドネシア、ベトナム、米国、ハワイなどです(4 月 28 日現在)。海外の麻しん流行地域への渡航者は、自分のワクチン接種歴を確認の上、ワクチン接種を行い、麻しんウイルスを日本へ持ち込まないことが大切です。



2014 年第 15～18 週(4/7 ～ 5/4)の都道府県別報告数を見ると、東京都、大阪府、愛知県などで多く報告されています。麻しんの発生地域に出かけ、その後、発熱、鼻水など風邪のような症状がでた場合は、麻しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

・IASR 35(4), 2014【特集】麻疹　2014 年 3 月現在（国立感染症研究所）
・麻しんウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）
・麻しん患者の増加について　平成 26 年 2 月 7 日付（厚生労働省）
・太平洋地域における麻しんの流行状況について（厚生労働省検疫所）
・東アジアと東南アジアにおける麻しんの流行状況について（厚生労働省検疫所）
・＜速報＞スリランカから輸入された B3 型麻しんの集団発生－京都府（国立感染症研究所）

平成 26 年 5 月 16 日

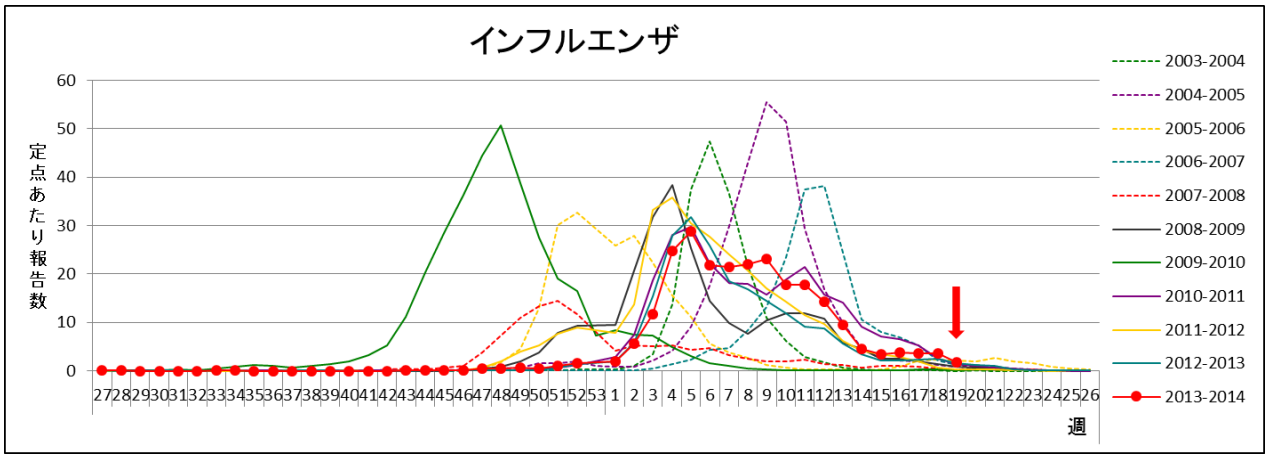
インフルエンザ情報　2014 年 第 19 週 （5 月 5 日 ～ 5 月 11 日）

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➢ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 153 名（定点あたり 3.54 → 1.82 人）の発生があり、前週より減少しました。
○インフルエンザによる入院患者は、1 名の報告がありました。
○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は 2 施設でありました。

【 第 20 週　速報 】
○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 9 施設でありました。（5 月 12 日～14 日）



※　インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 153 名（定点あたり 3.54 → 1.82 人）の発生があり、前週より減少しました（84 定点医療機関報告）。

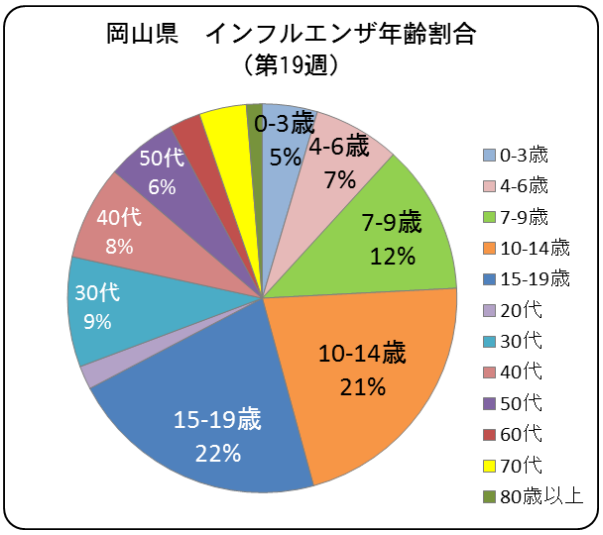
地域別では、備北地域（8.50 人）、備前地域（1.87 人）、美作地域（1.60 人）の順で定点あたりの報告数が多くなりました。全ての地域で減少しましたが、備北地域は依然定点あたりの報告数が多くなっています。5 月 14 日までで、インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 9 施設で報告されており、まだしばらく流行がつづくと思われます。

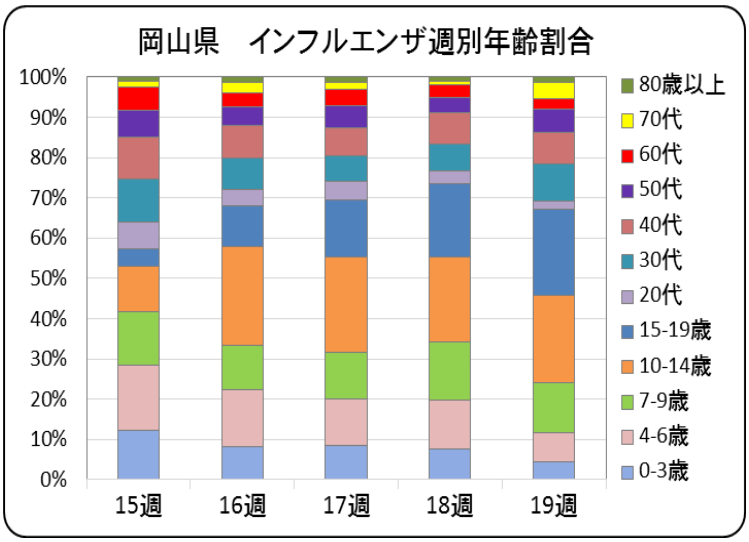
岡山県ではひきつづき「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『充分な睡眠をとる』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

インフルエンザ Q&A（厚生労働省）

1.　年齢別発生状況

第 19 週、年齢別割合は、15－19 歳 22%、10－14 歳 21%、7－9 歳 12% の順で多くなっており、小学生・中学生・高校生に該当する年齢層が 55% を占めています。学校等の臨時休業も報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。



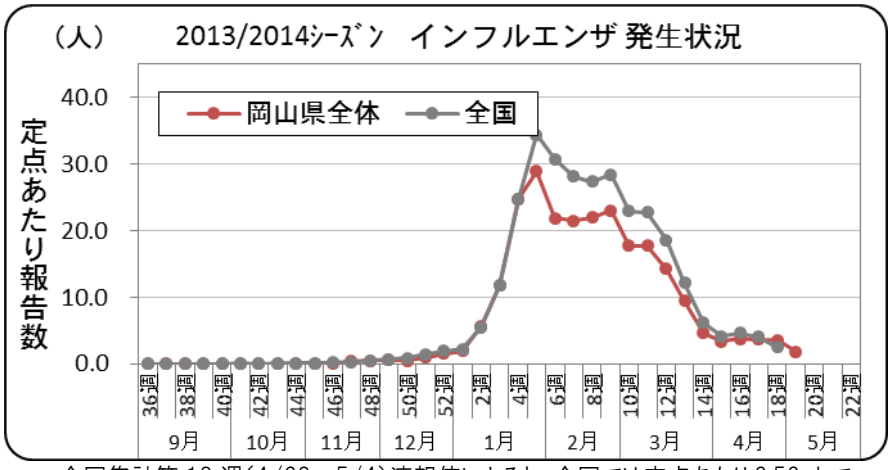


2. 地域別発生状況

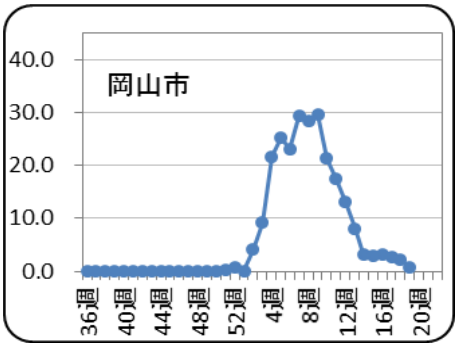
前週からの推移（単位：人）

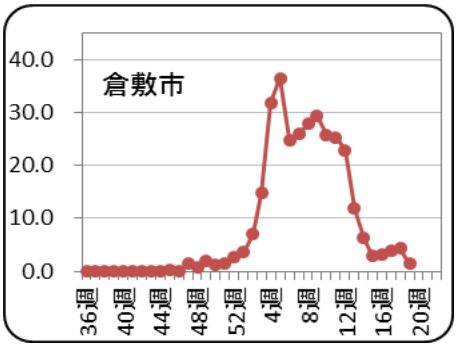
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	**患者数**	**153**	↘	備　中	患者数	14	↓
	定点あたり	**1.82**			定点あたり	1.17	
岡山市	患者数	19	↓	備　北	患者数	51	↘
	定点あたり	0.86			定点あたり	8.50	
倉敷市	患者数	22	↓	真　庭	患者数	3	↓
	定点あたり	1.38			定点あたり	1.00	
備　前	患者数	28	↘	美　作	患者数	16	↘
	定点あたり	1.87			定点あたり	1.60	

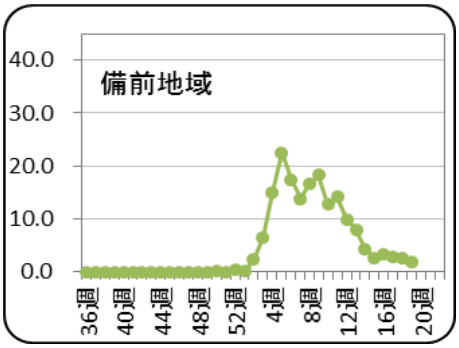
【記号の説明】　前週からの推移：　2倍以上の減少 ↓　1.1～2倍未満の減少 ↘　1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗　2倍以上の増加 ↑

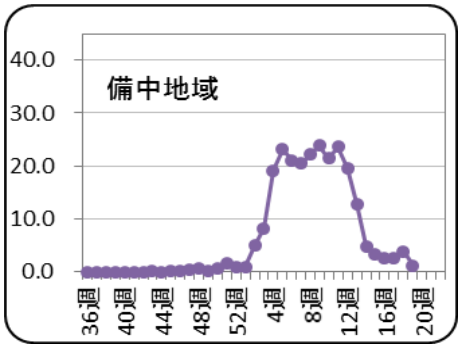


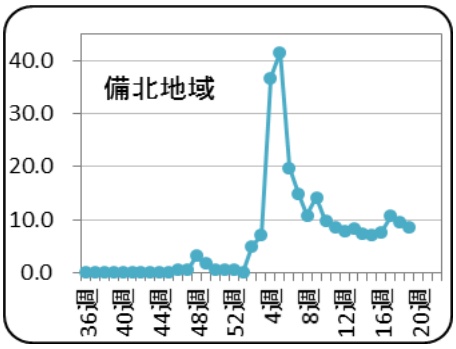
全国集計第 18 週(4/28～5/4)速報値によると、全国では定点あたり 2.52 人であり、前週より減少しました。地域別では、沖縄県(10.26 人)、山形県(9.40 人)、岩手県(8.20 人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、46 都道府県で前週より減少しています。

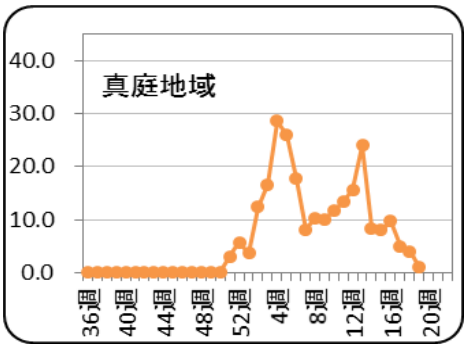


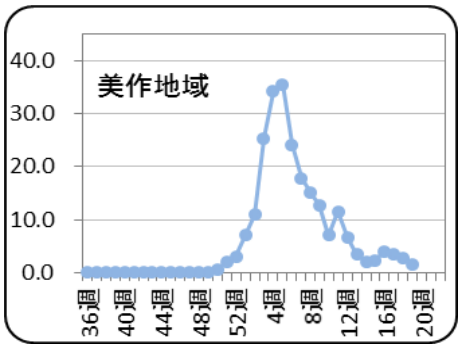










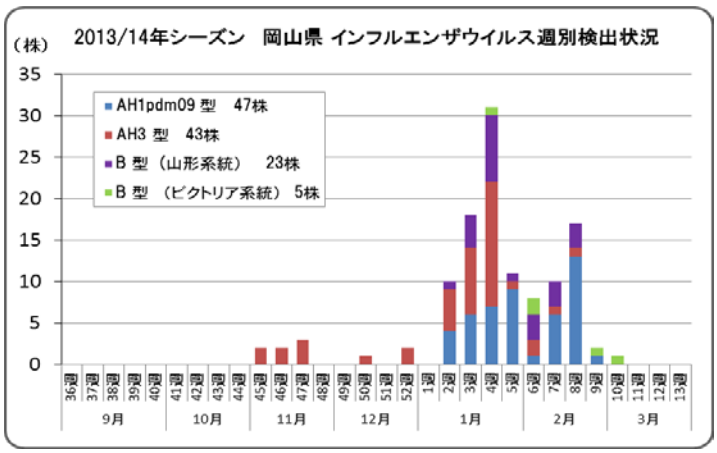


3. インフルエンザウイルス検出状況

第 19 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型が 1 株でした。今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型が 47 株（40%）、AH3 型が 43 株（36%）、B 型が 28 株（24%）となっています。

（岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況）

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型 44%、B 型 34%、AH3 型 22% の順に多く検出されています。しかし、最近 5 週間（14 週～18 週）の検出割合では、B 型、AH1pdm09 型の順となっています。（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））



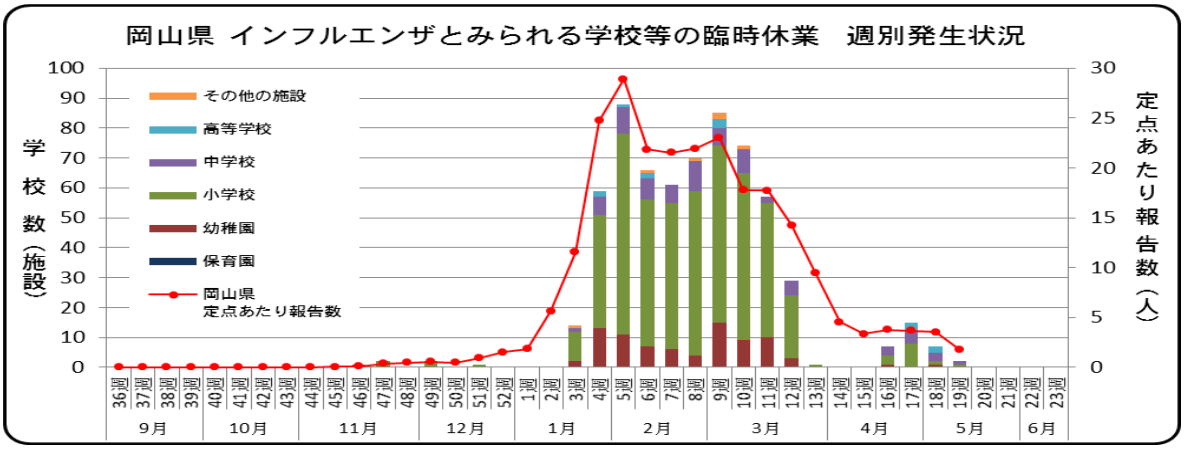
【第 19 週　判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 7週（ 2/10～ 2/16）	2014/2/10	備中	幼児	男	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は 2 施設でありました。

【第 19 週　臨時休業施設数】　　▽岡山市　1　　▽高梁市　1



1）有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名＊	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	**28**	**9363**	**14**	**7102**	**2**	**641**	**0**	**17**	**1**	**178**	**1**	**446**	**H25. 11. 13**
岡山市	12	3840	7	2791	1	231	0	3	0	35	1	193	H26. 1. 14
倉敷市	0	1621	0	1289	0	117	0	1	0	22	0	94	H25. 11. 18
備前地域	0	766	0	623	0	69	0	1	0	35	0	33	H26. 1. 16
備中地域	0	1264	0	991	0	94	0	0	0	24	0	70	H25. 11. 13
備北地域	16	331	7	211	1	19	0	5	1	9	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	0	157	0	124	0	16	0	0	0	11	0	5	H26. 1. 27
美作地域	0	1384	0	1073	0	95	0	7	0	42	0	46	H25. 12. 20

＊地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2）臨時休業施設数の内訳

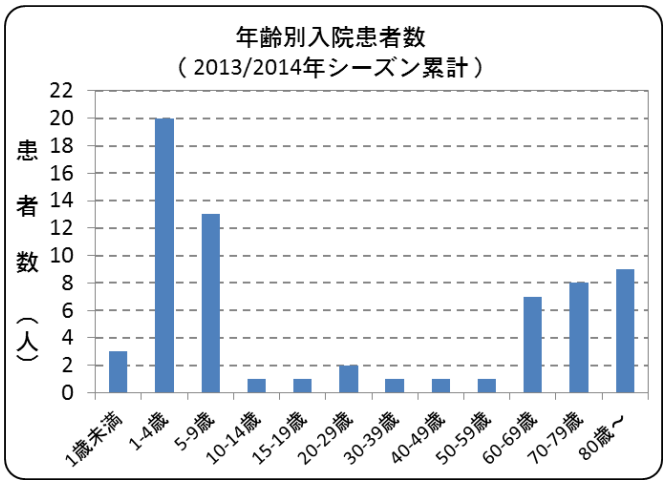
第 19 週：　2 施設　　累計：641 施設

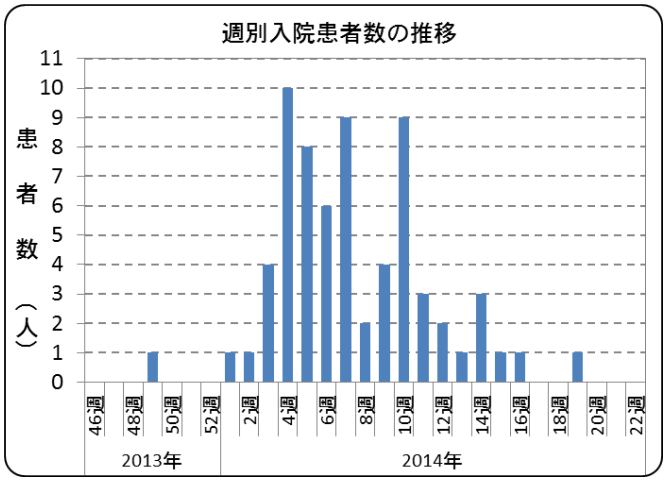
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	－	－	0	83	1	468	1	71	0	13	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（1－4 歳）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。





【第 19 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数		1											1
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査（予定含）													
いずれにも該当せず		1											1

＊重複あり

【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

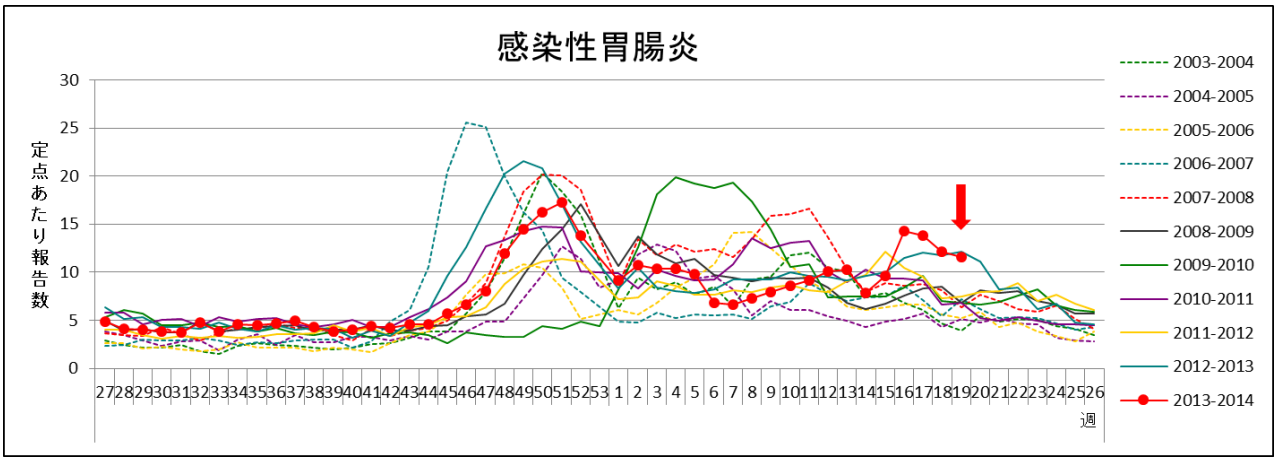
年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	**3**	**20**	**13**	**1**	**1**	**2**	**1**	**1**	**1**	**7**	**8**	**9**	**67**
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査（予定含）	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	8	54

＊重複あり

平成 26 年 5 月 16 日

感染性胃腸炎情報　2014 年　第 19 週 （ 5 月 5 日 ～ 5 月 11 日）

○感染性胃腸炎は、県全体で 623 名（定点あたり 12.15 → 11.54 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。
○早島町の小学校 1 校で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。

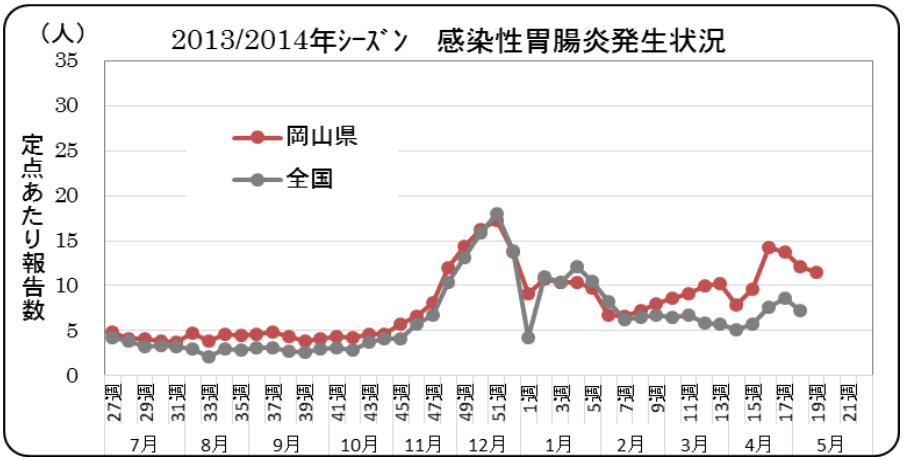


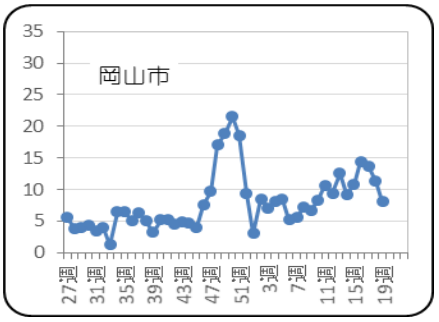
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

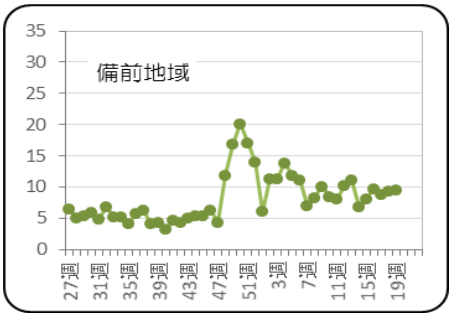
感染性胃腸炎は、県全体で 623 名（定点あたり 12.15 → 11.54 人）の発生があり、前週とほぼ同数でした。この時期としては、患者数が多い状態がつづいています。早島町の小学校 1 校で感染性胃腸炎による臨時休業がありました。冬～春にかけての感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

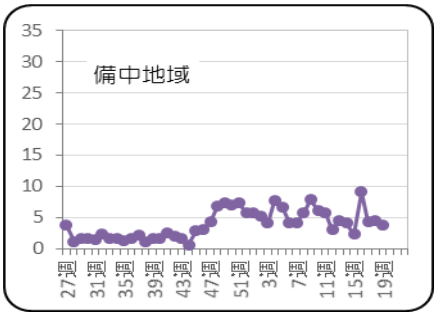
○ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）
○ロタウイルスに関する Q&A（厚生労働省）

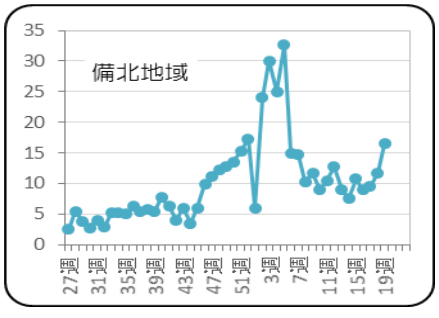
◆地域別・年齢別発生状況

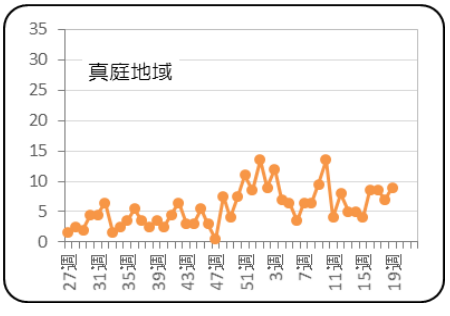


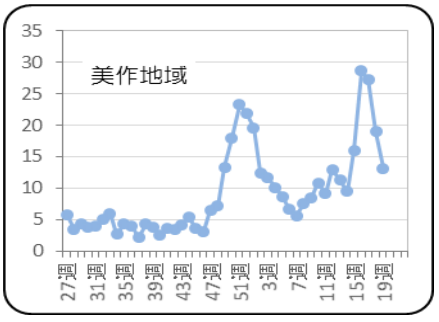


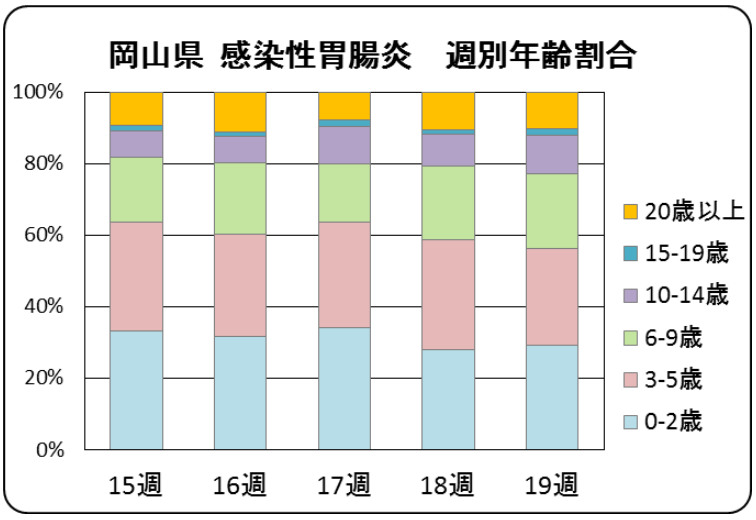


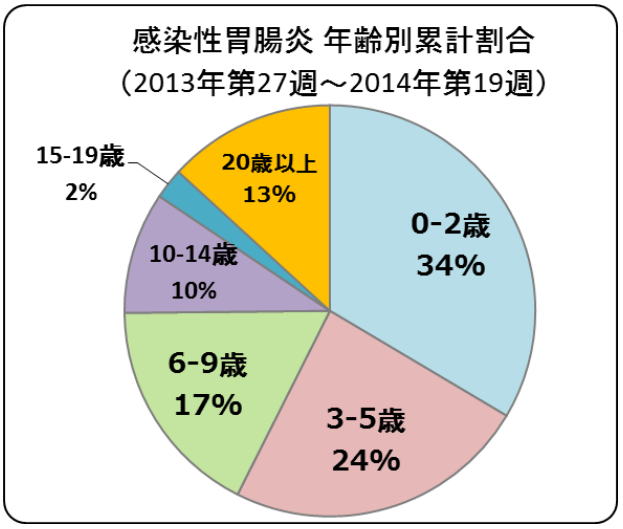












地域別では、倉敷市（20.45 人）、備北地域（16.50 人）、美作地域（13.17 人）、の順で定点あたり報告数が多くなりました。倉敷市では、定点あたりの報告数が 20 人を上回り、美作地域とともに発生レベル3 となっています。年齢別累計割合では、0－2 歳の年齢層が全体の 34% を占めています。

例年 3～5 月には、0－2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

（IASR Vol.35 p.63-64: 2014 年 3 月号　ロタウイルス　2010～2013 年）（国立感染症研究所）

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数　2014年 19週　（2014/05/05～2014/05/11）

2014年5月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	153	1.82	19	0.86	22	1.38	28	1.87	14	1.17	51	8.50	3	1.00	16	1.60
RSウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	25	0.46	11	0.79	1	0.09	－	－	1	0.14	3	0.75	2	1.00	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	0.67	16	1.14	11	1.00	2	0.20	－	－	1	0.25	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	623	11.54	113	8.07	225	20.45	96	9.60	26	3.71	66	16.50	18	9.00	79	13.17
水痘	31	0.57	18	1.29	10	0.91	2	0.20	－	－	－	－	－	－	1	0.17
手足口病	1	0.02	－	－	－	－	－	－	1	0.14	－	－	－	－	－	－
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
突発性発疹	21	0.39	7	0.50	7	0.64	2	0.20	－	－	4	1.00	－	－	1	0.17
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	4	0.07	1	0.07	3	0.27	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	2	0.18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	4	1.00	－	－	－	－					－	－
細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	－	－	1	1.00					－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	6	1.20	6	6.00	－	－					－	－	－	－	－	－

（－：　0　or　0.00）　　（空白：定点なし）

保健所別報告患者数　2014年 19週　（2014/05/05～2014/05/11）

2014年5月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	153	1.82	19	0.86	22	1.38	28	1.87	14	1.17	51	8.50	3	1.00	16	1.60
咽頭結膜熱	25	0.46	11	0.79	1	0.09	–	–	1	0.14	3	0.75	2	1.00	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	0.67	16	1.14	11	1.00	2	0.20	–	–	1	0.25	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	623	11.54	113	8.07	225	**20.45**	96	9.60	26	3.71	66	16.50	18	9.00	79	**13.17**
水痘	31	0.57	18	1.29	10	0.91	2	0.20	–	–	–	–	–	–	1	0.17
手足口病	1	0.02	–	–	–	–	–	–	1	0.14	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	4	0.07	1	0.07	3	0.27	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	2	0.18	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	4	1.00	–	–	–	–					–	–

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　　を示しています。

（－：　0　or　0.00）　（空白：定点なし）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2014年　第19週　 2014/05/05～2014/05/11 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	153	-	-	3	3	1	3	2	6	7	6	6	33	33	3	14	12	9	4	6	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	25	1	1	3	7	5	1	-	3	1	2	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	-	-	-	-	1	5	3	3	3	5	3	9	1	3
感染性胃腸炎	623	10	44	64	63	69	52	49	40	45	22	22	68	11	64
水痘	31	-	6	7	9	3	2	2	-	1	1	-	-	-	-
手足口病	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	1	10	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	4	-	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	1	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	1

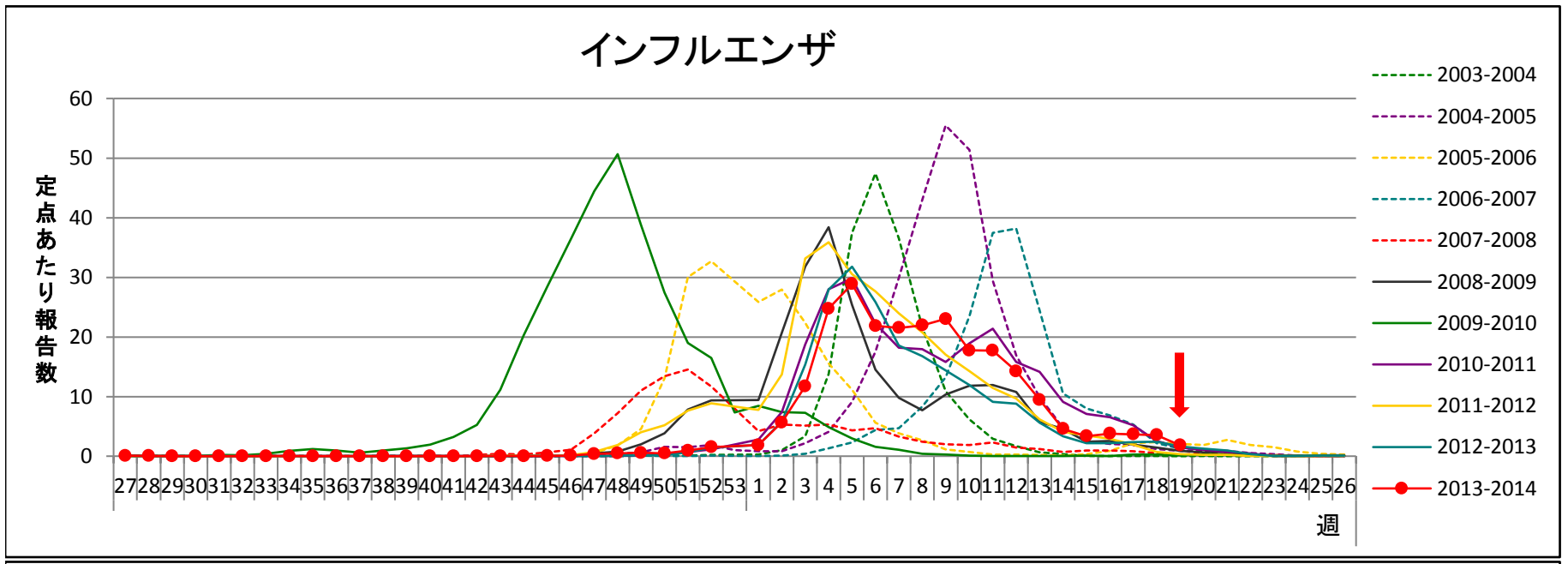
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

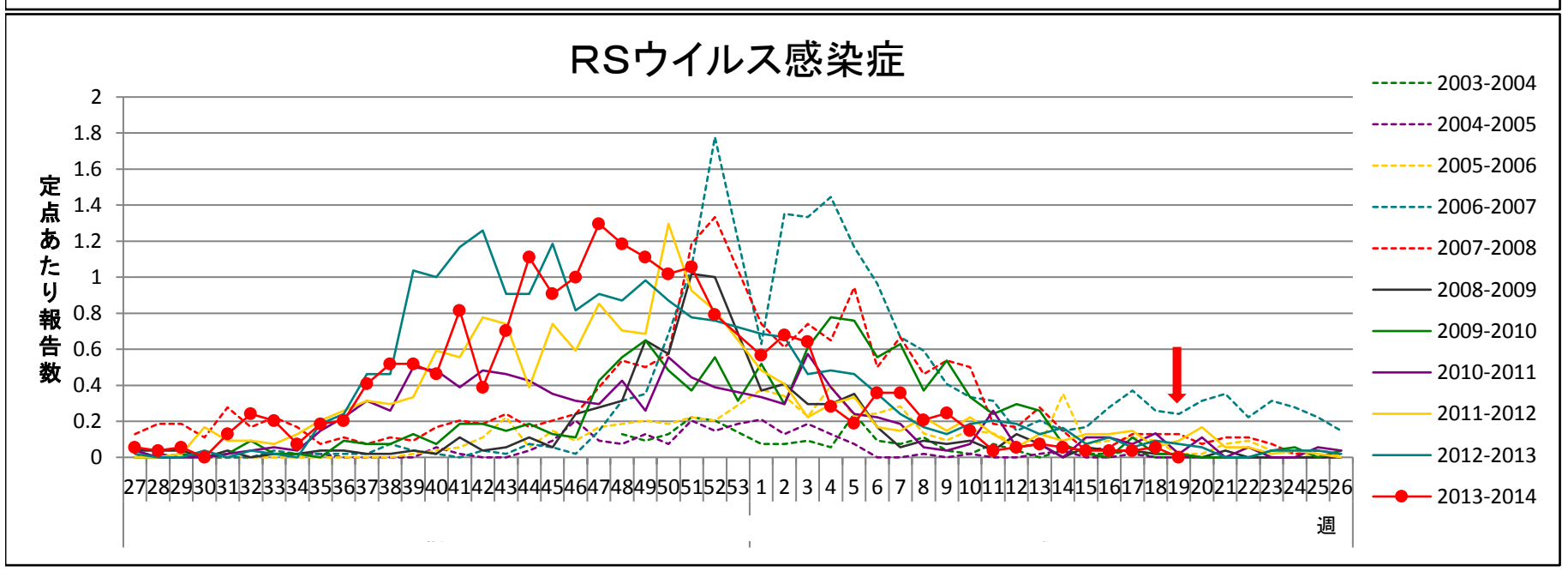
（－： 0 ）

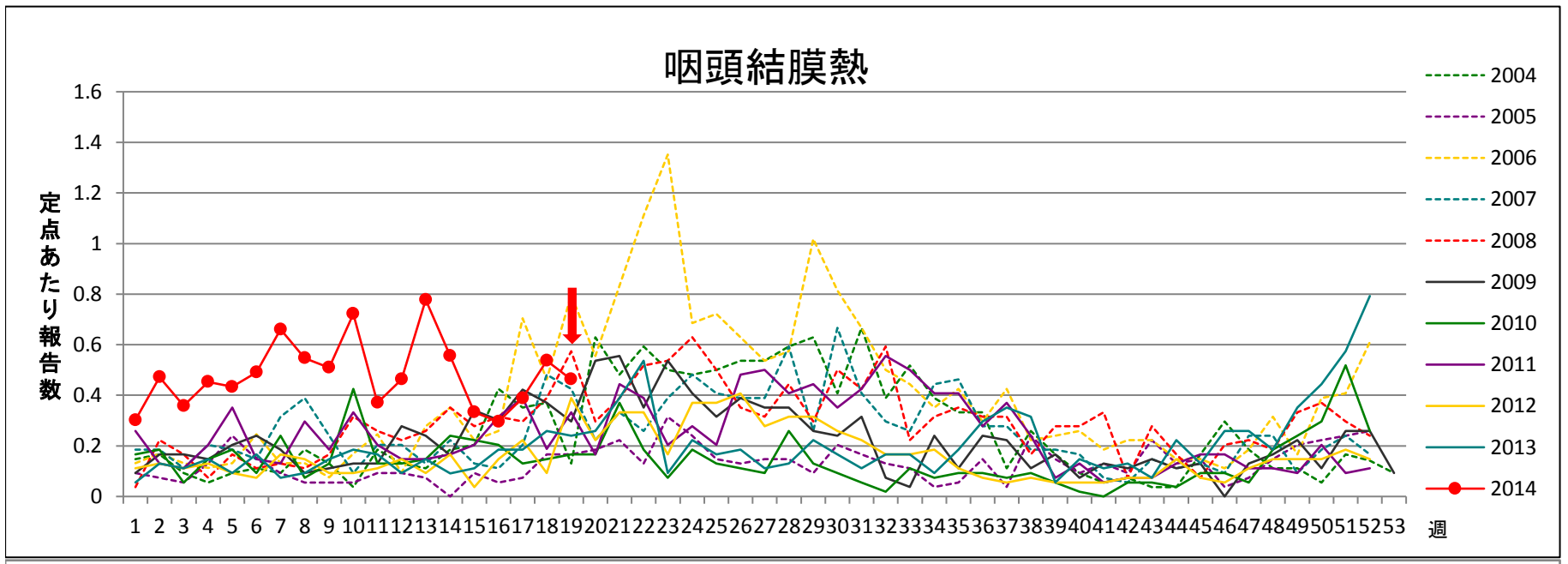
全数把握 感染症患者発生状況

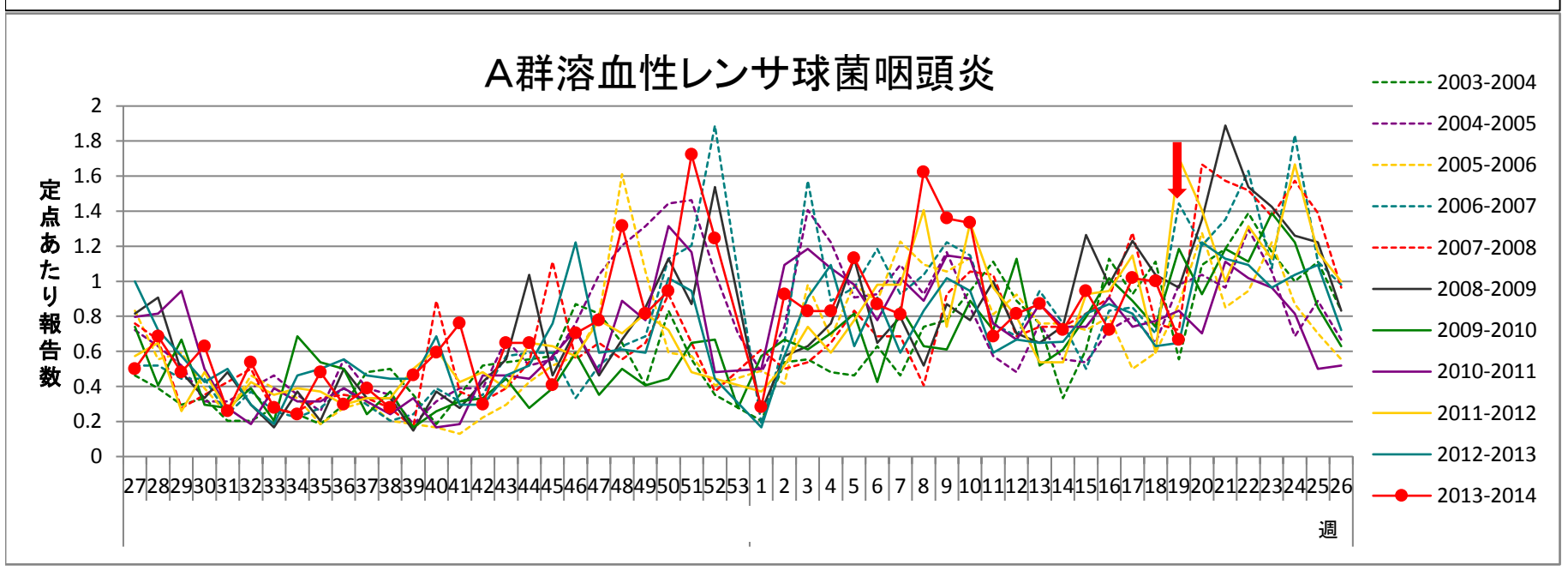
2014 年 19 週

分類	疾病名	2014 今週	2014 累計	2013 昨年	疾病名	2014 今週	2014 累計	2013 昨年	疾病名	2014 今週	2014 累計	2013 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	–	98	358	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	–	6	87
	腸チフス	–	–	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	1	–	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	3	5
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	2	腎症候性出血熱	–	–	–
	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–	炭疽	–	–	–
	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	–	デング熱	–	–	–
	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–	ニパウイルス感染症	–	–	–
	日本脳炎	–	–	1	日本紅斑熱	–	–	2	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–
	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–	ブルセラ症	–	–	–
	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–	発しんチフス	–	–	–
	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	1	野兎病	–	–	–
	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–	リフトバレー熱	–	–	–
	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	9	24	レプトスピラ症	–	–	2
	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	2	20	ウイルス性肝炎*3	–	4	13	急性脳炎*4	–	5	5
	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	–	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	1	3
	後天性免疫不全症候群	–	4	18	ジアルジア症	–	–	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	–	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	–	9	20	先天性風しん症候群	–	–	–
	梅毒	–	4	8	破傷風	–	–	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	1	1	風しん	–	2	76	麻しん	–	6	3

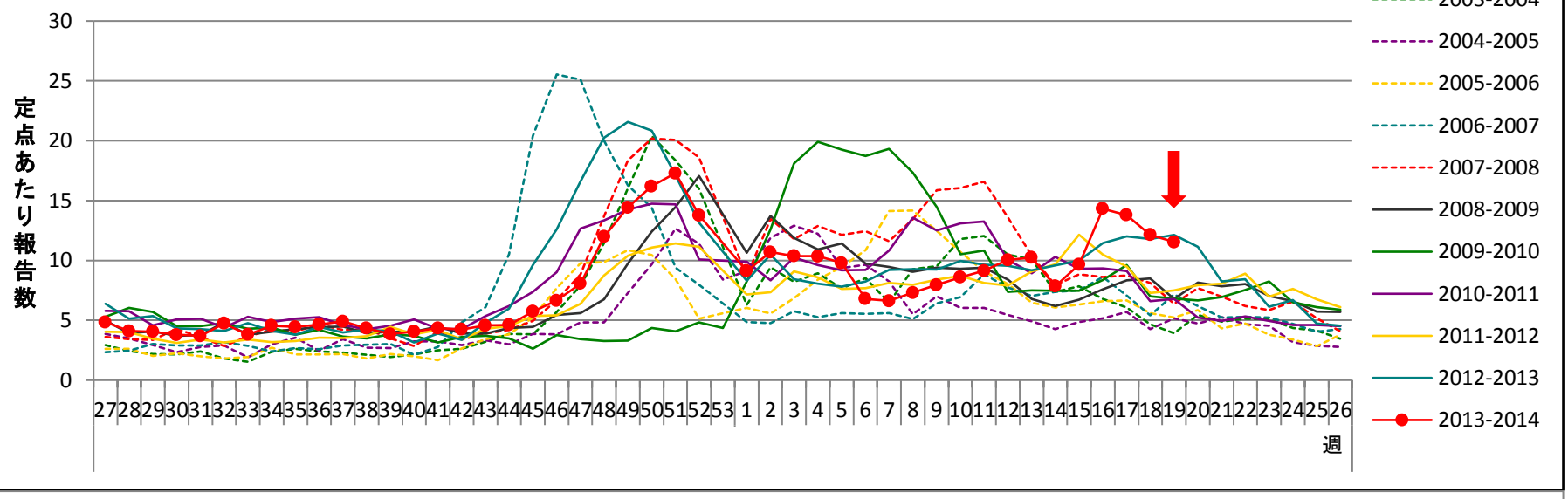

インフルエンザ
定点あたり報告数
60
50
40
30
20
10
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014


RSウイルス感染症
定点あたり報告数
2
1.8
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

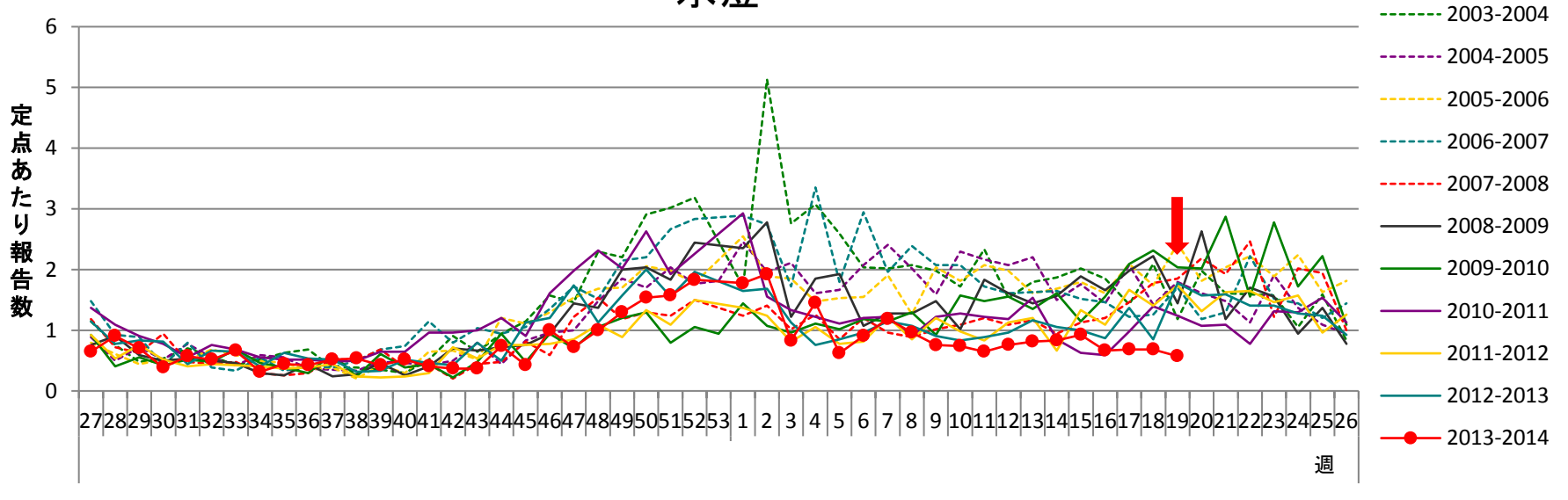

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
2
1.8
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

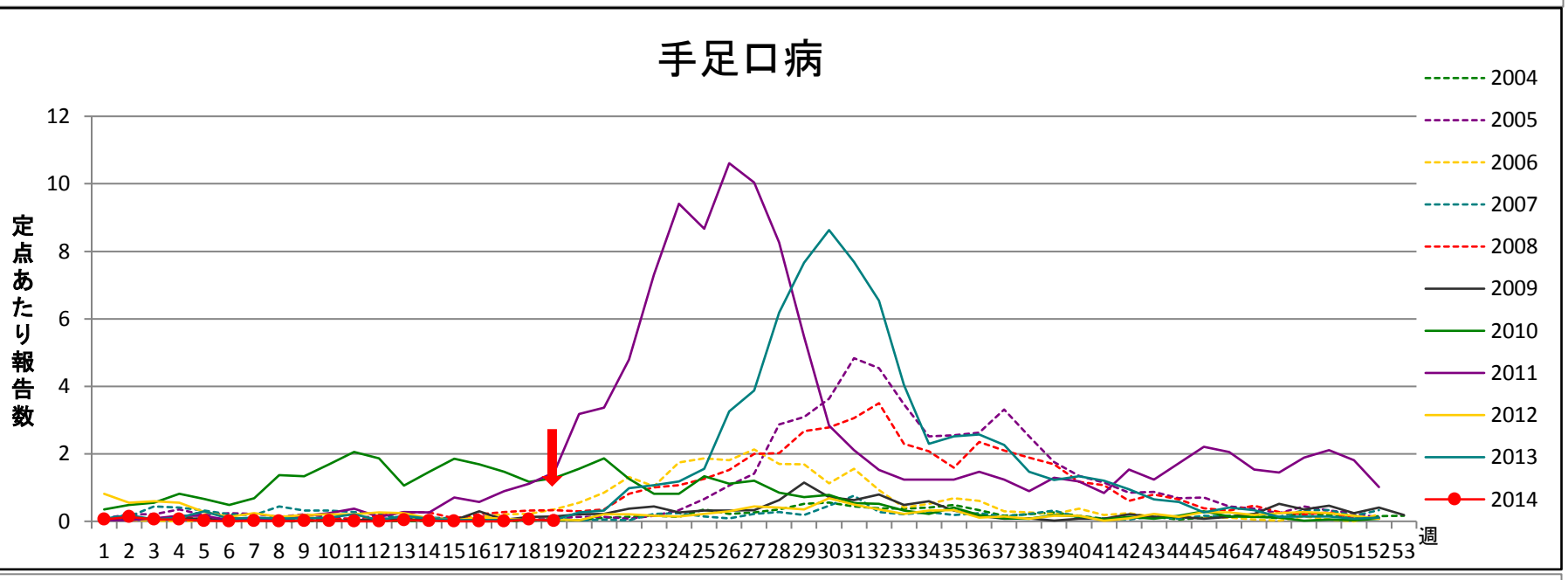
感染性胃腸炎



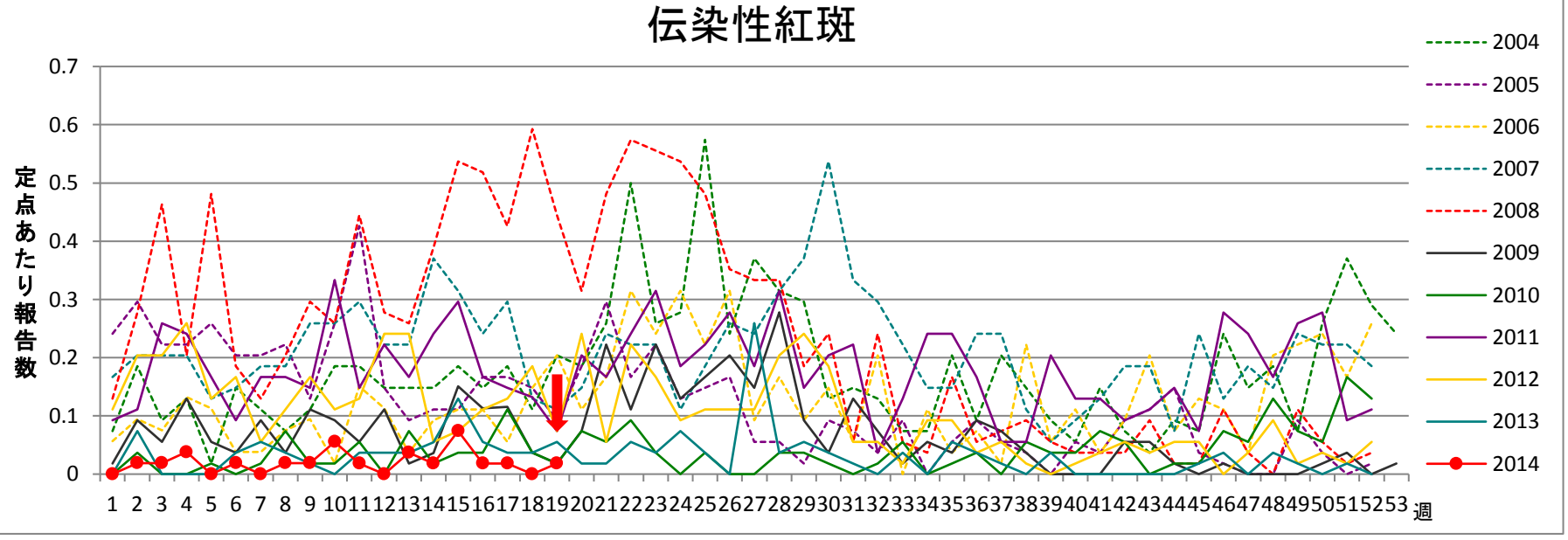
水痘



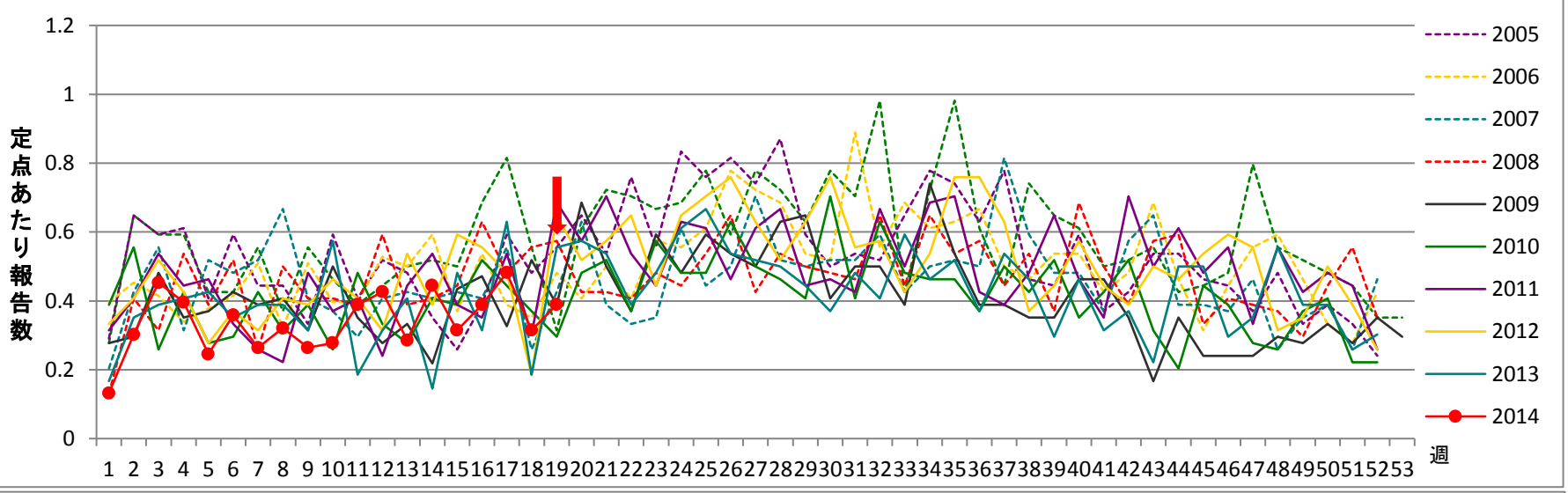
手足口病



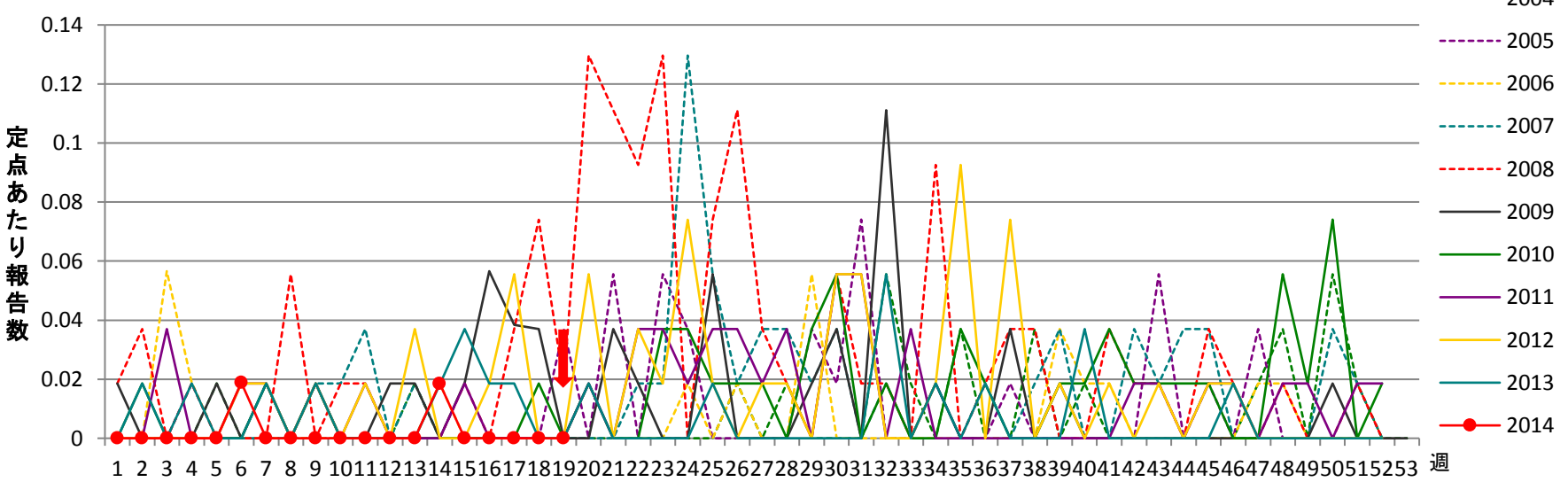
伝染性紅斑



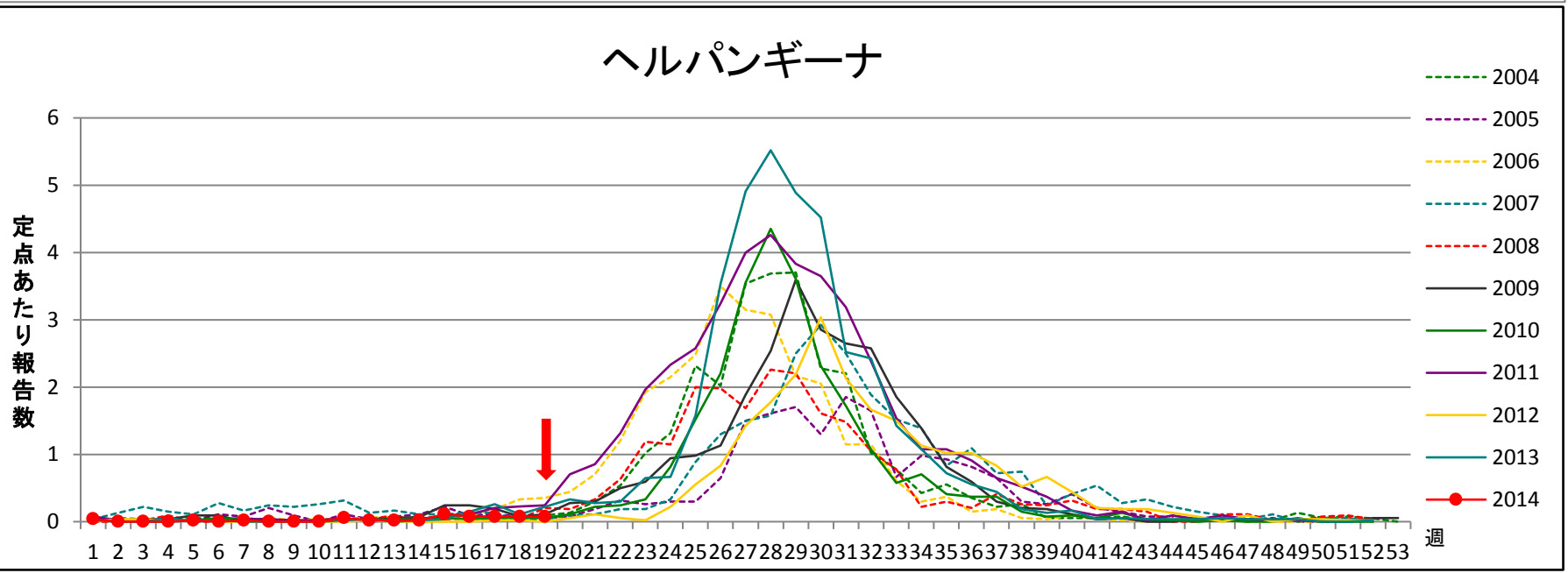
突発性発疹



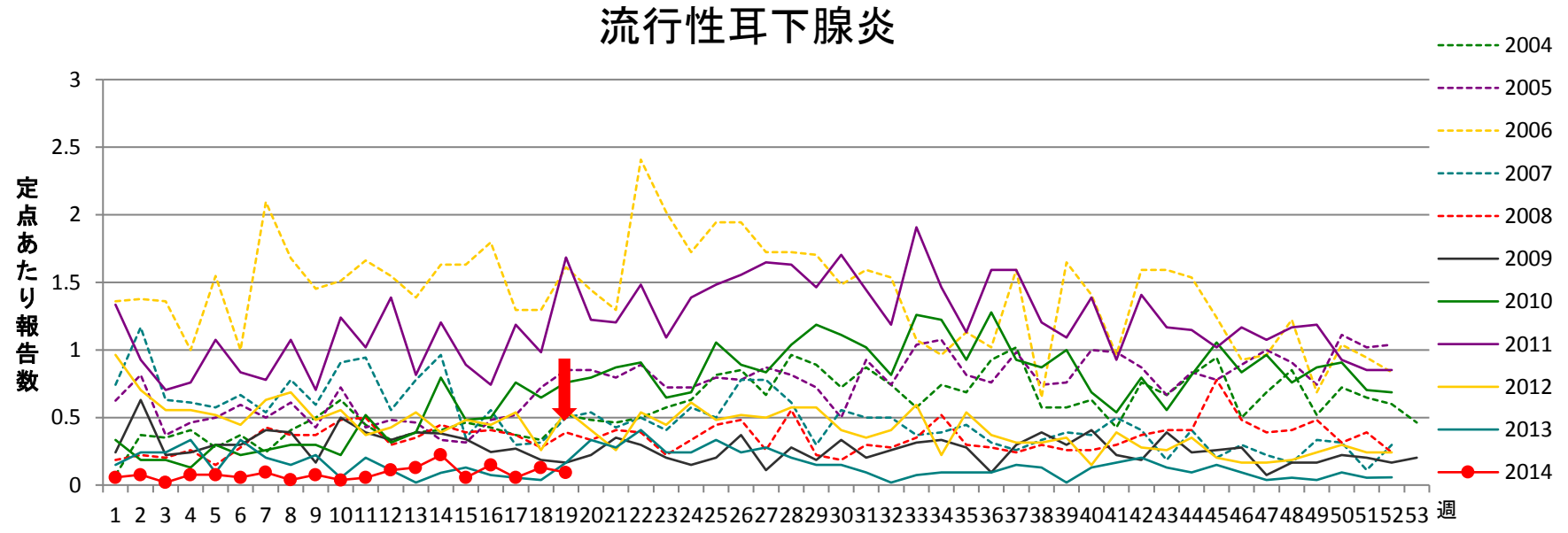
百日咳



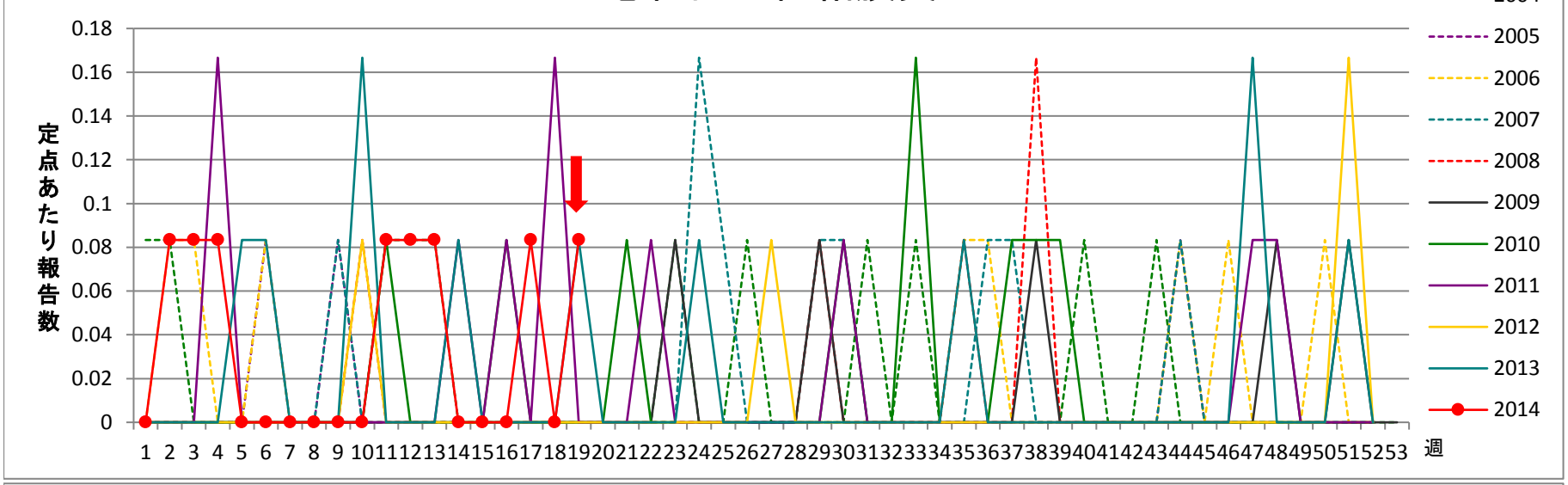
ヘルパンギーナ



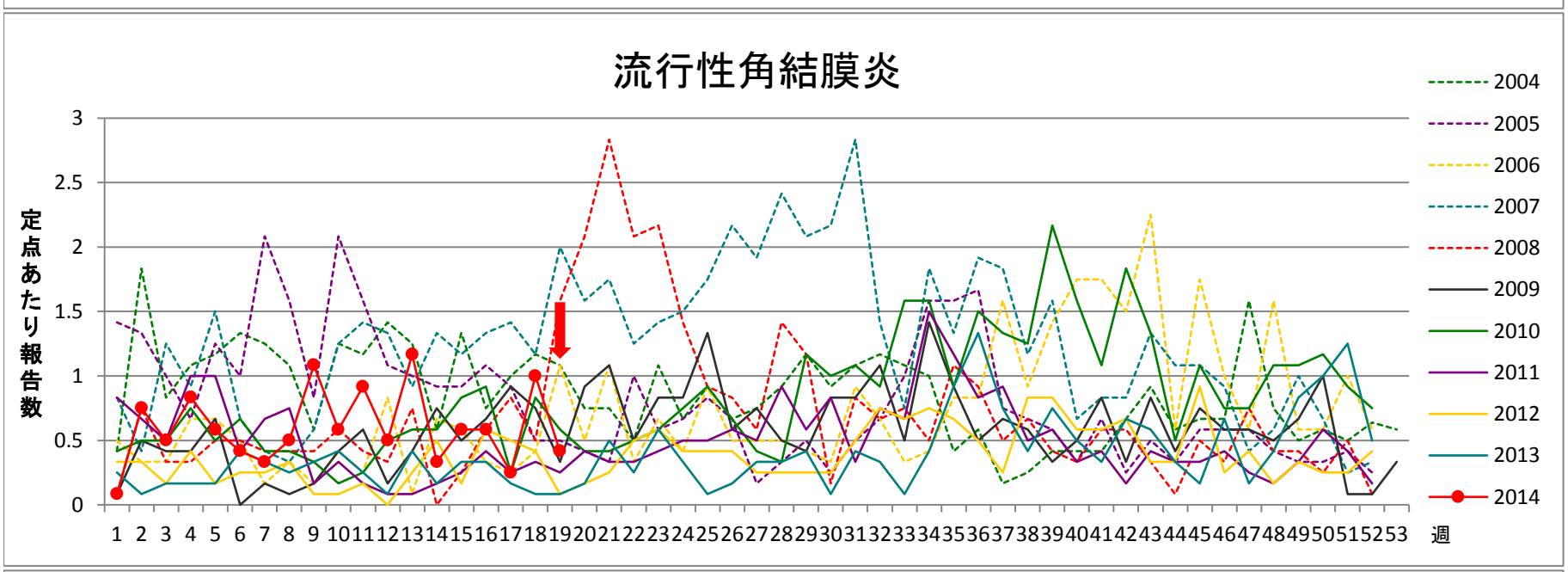
流行性耳下腺炎



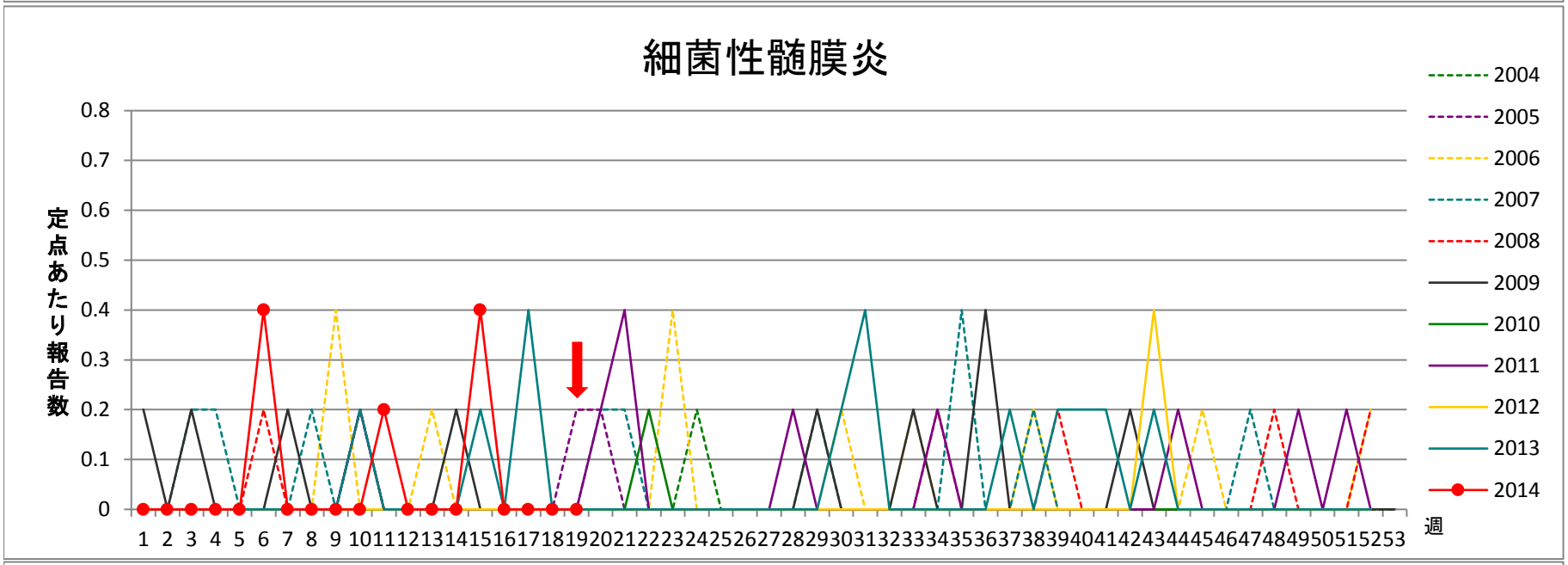
急性出血性結膜炎



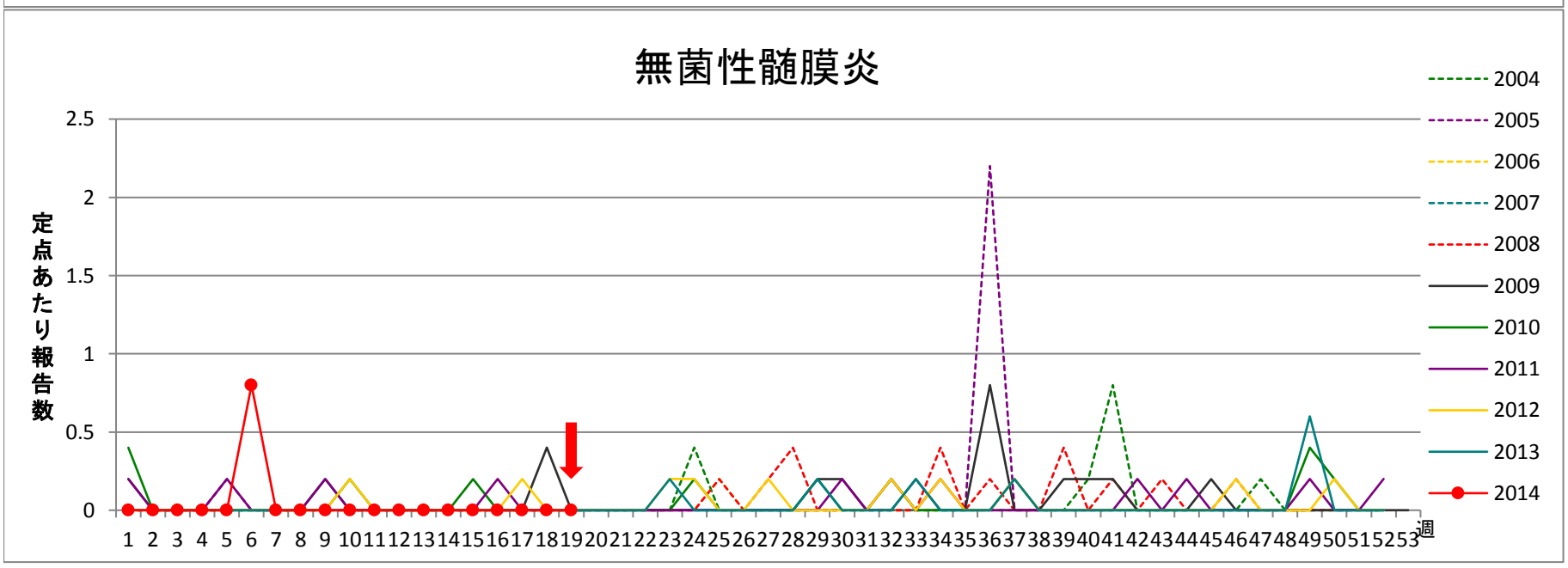
流行性角結膜炎

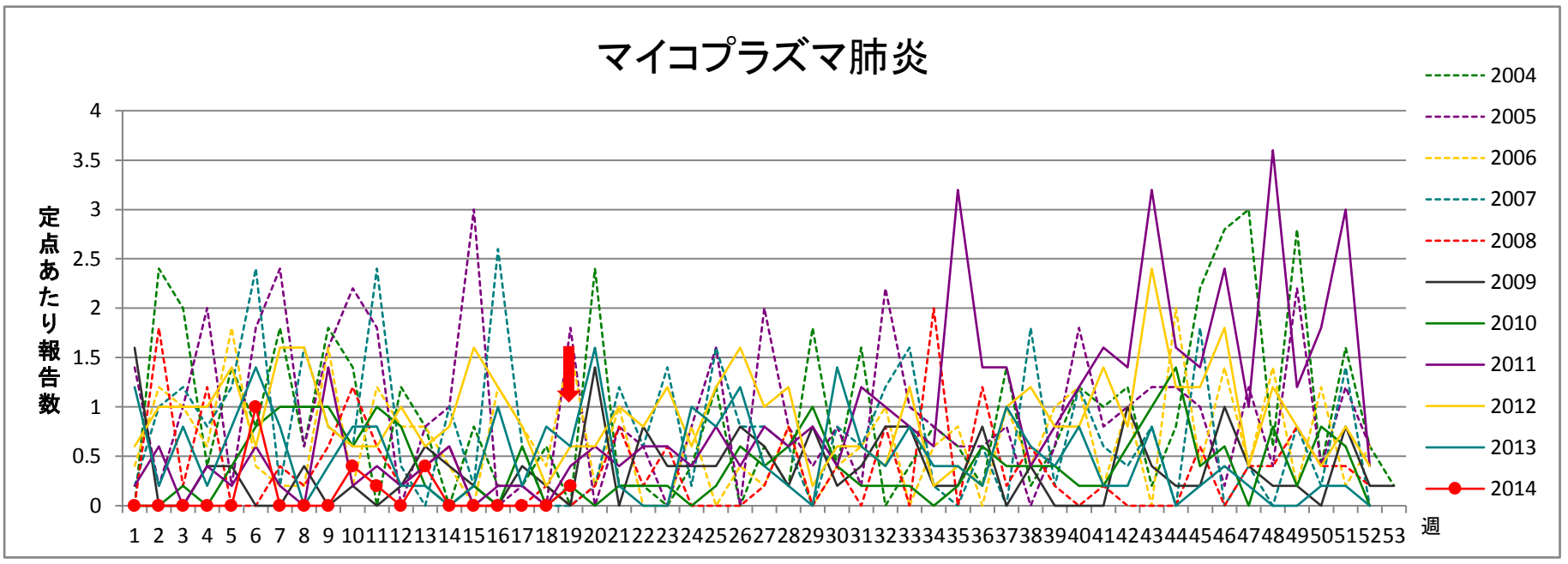


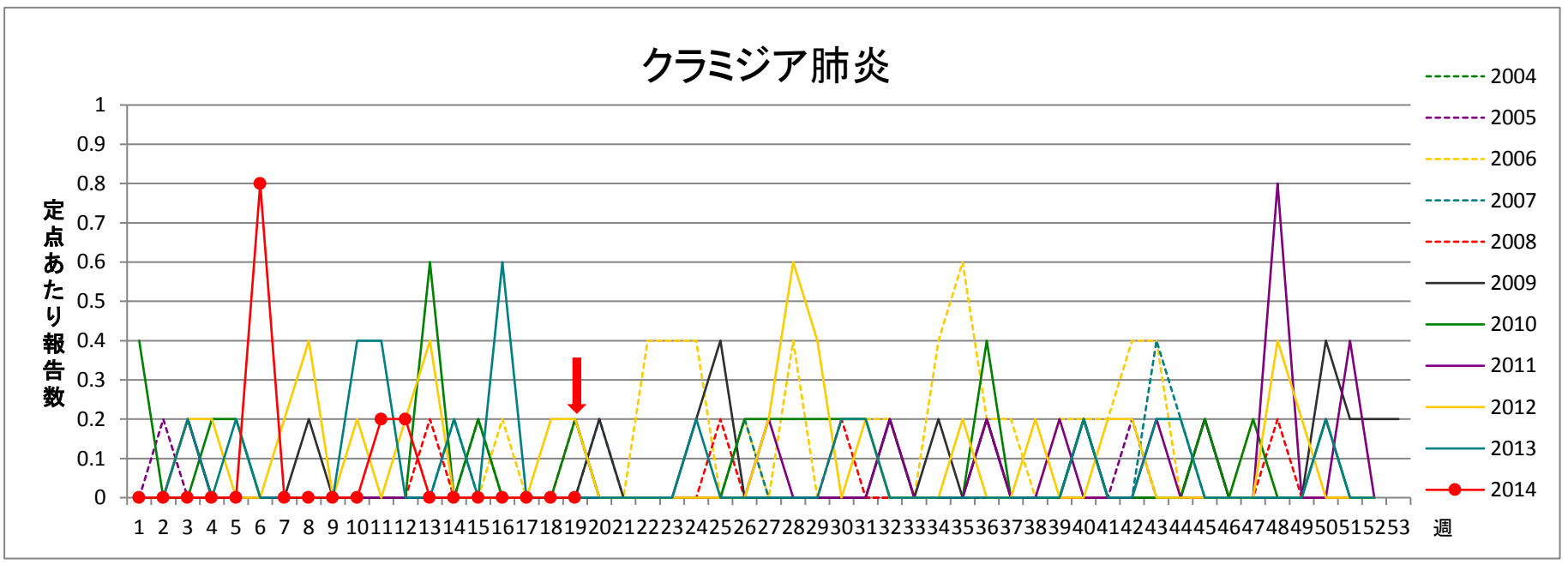
細菌性髄膜炎

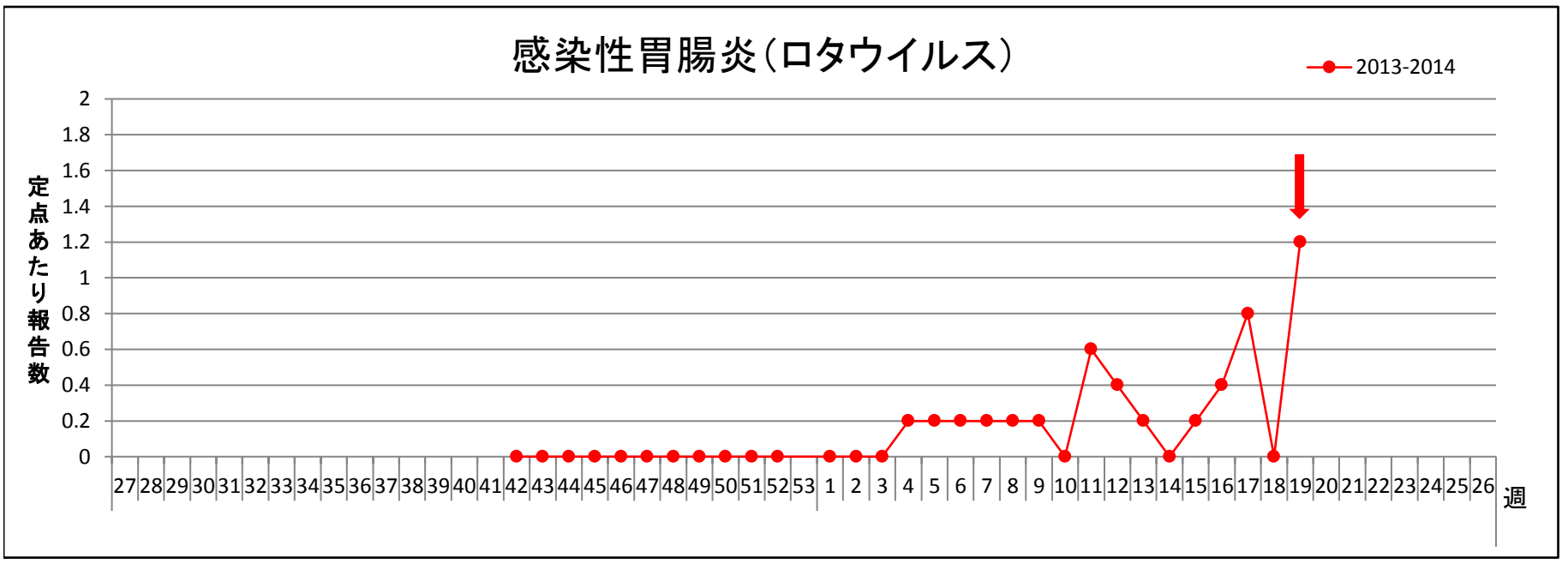


無菌性髄膜炎




マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
0
0.5
1
1.5
2
2.5
3
3.5
4
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
0
0.1
0.2
0.3
0.4
0.5
0.6
0.7
0.8
0.9
1
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
0
0.2
0.4
0.6
0.8
1
1.2
1.4
1.6
1.8
2
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2013-2014